

子どものやけど 心と身体に残る傷をつくらないために

子どものやけど（熱傷）は、熱傷患者の約半分を占め、その大半が親の不注意によるものです。また、子どもは皮膚が薄いため、初期治療の結果によっては、たとえ小範囲の熱傷であっても、予想外の皮膚のケロイドや関節のひきつれをおこすことがあります。

＜熱傷の種類と危険度＞

熱傷のひどさは、その程度と面積比（身体面積に対する熱傷面積比）で決まります。危険な熱傷面積比は、およそ大人20%に対し、子供は10%で、命に関わる可能性もあります。簡単な目安として、熱傷をした本人の手のひらの大きさを1%と考えてください。

	1度（皮膚熱傷）	2度（真皮熱傷）	3度（全層熱傷）
外見と症状	皮膚が赤くなひりひりする程度	水ぶくれ（水泡）となり、痛みが強い	皮膚色は蒼白または灰黒色でありあまり痛くない
経過	数日で治る	1～2週で治るが化膿すると3度になる	ケロイド治療または、植皮をする

＜家庭での応急処置＞

1. 早く患部の熱をとるために冷やすことが大事です。

- 手や足 : 水道水で、5分から10分冷やす。
- 顔や頭 : 水をふくませたタオルなどをあてる。なお鼻毛やまつげが焦げている時は、気道熱傷の可能性があり、呼吸困難をおこすことがあるので大きな病院にすぐ受診する。
- 胸や腹や背中 : 衣類を無理にはがさないで、はさみで切るか、無理な場合はまずその上から水道水をかけて冷やす。服を無理にぬがすと、皮膚がはがれ、やけどがより悪化する。
- 全身 : まず救急車を呼び、待つ間は衣服をきせたまま、水を出しっぱなしの浴槽や、ベビーバスで冷やす。

乳幼児の場合は、冷却中に震えが起こった時は、冷やすのをやめる。低体温になって危険。清潔なバスタオルなどでくるみ、保温しながら早急に病院に行く。

2. 冷やしたあとは水でぬらしたガーゼや清潔なタオルなどで軽く包んで（決して強くまかない）、水泡は破らないことが大切です。小さな熱傷でも水泡ができた時はかかりつけ医に相談しましょう。化膿して深い熱傷に移行することがあります。
3. 軽度の熱傷（赤くなっただけ）の場合は、痛みのある間、氷で冷やします。
4. アロエ、しょうゆ、みそを塗るなどの民間療法はしないでください。赤チンなどの家庭にある消毒薬も使わない方が無難です。化膿したり、ケロイドやひきつれの原因になることがあります。

子どもの熱傷は、見た目よりも重いことが多いので、軽く考えて簡単な手当てで済まさないことが大切です。的確な応急処置を行った後、病院にすぐ受診してください。

<原因>

子どもの熱傷の過半数は熱い液体（ポットの湯、お茶、スープ、カップラーメンなど）によるものです。子どもの届くところにこれらの熱い液体を置き、こぼしてかぶるといふのが多いようです。次に多いのがストーブ、アイロン、ホットプレートなどの熱源（加熱固体）に接触して熱傷する場合です。また、年齢が大きくなると、花火、火遊びなどの火災による熱傷もふえてきます。これらのことを念頭に置いて、熱傷事故を予防することが大事です。

<予防>

1. 乳児から2才児

- …子どもを抱っこしたままお茶やコーヒーを飲まない。
- …熱い飲み物は子どもが寝てから楽しむ習慣をつける。
- …子どものいる部屋にポットなどを置かない（子供が触れることが出来ない場所にロックをして保管する）。
- …テーブルの上に熱い飲食物を置きっぱなしにしない。
- …テーブルクロスは子どもが引っ張っても危険なはずすようにする。
- …ストーブは出来るだけ使用しない（防護柵は子どもがもたれかかりかえって危険）。
- …アイロンなどの高温を生じる器具は子どもが寝てから使用する。
- …炊事中の台所には子どもを入れない。

2. 3才児以上

- …日頃から熱いものには触れない教育をする。
- …ストーブの上にやかんや鍋を置かない。
- …風呂場には勝手に入れないように鍵などをする。
- …マッチ、ライターを置きっぱなしにしない。
- …花火遊び等を勝手にさせない。

